

(1) 足立は第1回目の講演として、創知彫刻展を企画した意図とミュージセラピー (muse therapy) の考えに基づくキャンパスミュージアム (campus museum) について、(2) 絹谷はイタリアのベネチアでの彫刻との出会い、彫刻の道に進む大きなきっかけになった先生との出会い、今後の展望とくに創知彫刻への夢について、(3) 南城は美術・藝術について美と藝という漢字の語源に触れながら、美術館での彫刻展開催の難しさについて、(4) 島田は国際交渉人として創知とは何か、創知が交渉にどのように役立つかについて、(5) 栗原は‘博物館大好き人間’として、これまで収集した博物館グッズを紹介しながら、博物館の多様な楽しみ方について、(6) 谷口は名古屋大学東山キャンパスの過去・現在・未来の姿を紹介しながら、キャンパス空間の開発について、(7) 古川は50年前(1964年)に古川図書館(現在の古川記念館)を名古屋大学に寄附した祖父・古川為三郎の人となりについて、(8) Giles Clarke は、門脇博物館助教の通訳により、イギリスの大学博物館の歴史を振り返りながら、名古屋大学博物館の生き残り戦略について、講演した。どの講演も各人の実体験に基づく貴重な話で、聴衆に深い感銘を与えた。

### 博物館コンサート (NUMCo)

名古屋大学博物館では、博物館 (museum) と音楽 (music) の語源がともにギリシャ語の Muse に由来することから、「本物の標本で囲まれた展示空間で生演奏を楽しむ」博物館コンサート (NUMCo = Nagoya University Museum Concert) を2001年から始めた。

彫刻展の会期中には、3回のNUMCoが開催され、8月8日には名古屋大学附属高校ブラスバンド部、9月17日には辺見亜矢(フルート)と荒木まどか(ハープ)、11月8日には名古屋大学オーケストラが演奏を行い、約600人の聴衆が演奏を楽しんだ(図19)。



図19. 演奏中の名大附属高校ブラスバンド部。

### ホームカミングデイ・イベント

2014年10月18日(土)の第10回名古屋大学ホームカミングデイでは、石割り体験とギャラリートークが行われた。石割り体験は絹谷の指導で行われ(図20)、横2.5m、重さ約5トンの巨大な花崗岩の原石に鉄のクサビを打ち込んで割る体験イベントでは、何人かが交代で巨石にクサビを打ち込



図20. 石割り体験イベントで、ハンマーの使い方を指導する絹谷博物館研究協力者。



図21. 「天使の浴槽」に使われたオレンジ色石灰岩の解説をする足立特任教授。